

第17期うきたむ学講座（2025年度）

第2回講座

講座④

『絵図から見る米沢城-御三階をめぐって』

米沢女子短期大学教授 吉田 歆 氏

令和8年3月1日（日）

会場 山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館

絵図から見る米沢城—御三階をめぐる—

山形県立米沢女子短期大学

吉田 勸

はじめに

- ・ 謎の天守閣の立面図を紹介・・・最上義光の山形城？
- ・ 米沢城にも天守閣は建てられず、かわりに御三階（三階櫓）が建設された

- ・ 豊臣秀吉時代・・・蒲生氏郷が会津若松城に入り、米沢城を支城の一つに
- ・ 1598年、蒲生秀行→宇都宮へ
→上杉景勝が会津120万石で越後から移り、米沢城は直江兼続の支配に
- ・ 1600年（慶長5年） 関ヶ原の戦い→上杉景勝、会津から米沢30万石

第1章 米沢城の御三階とは

（1）御三階の実像

- ・ 明治になって廃城→現存しない
- ・ しかし、絵画資料は意外と豊富
「御城下絵図」「御城絵図」「松岬城堞図」など
- ・ 古写真＝明治初めころ

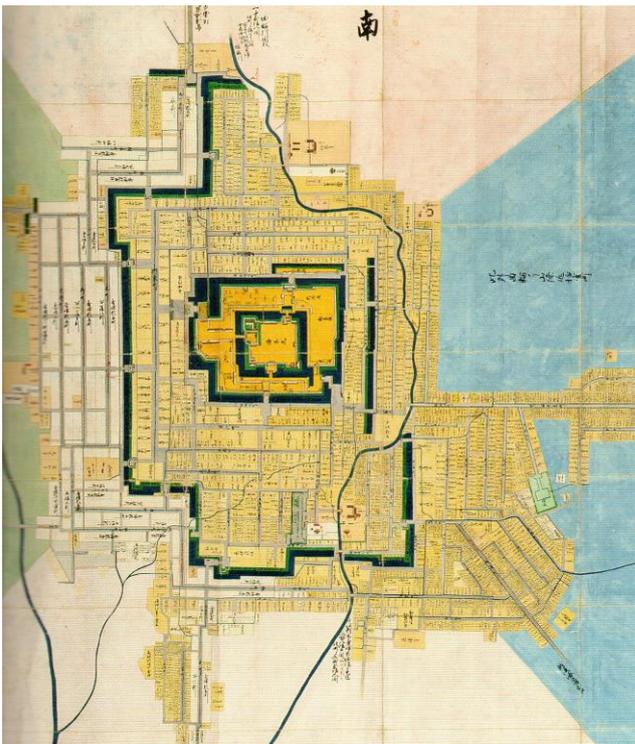


図1 御城下絵図

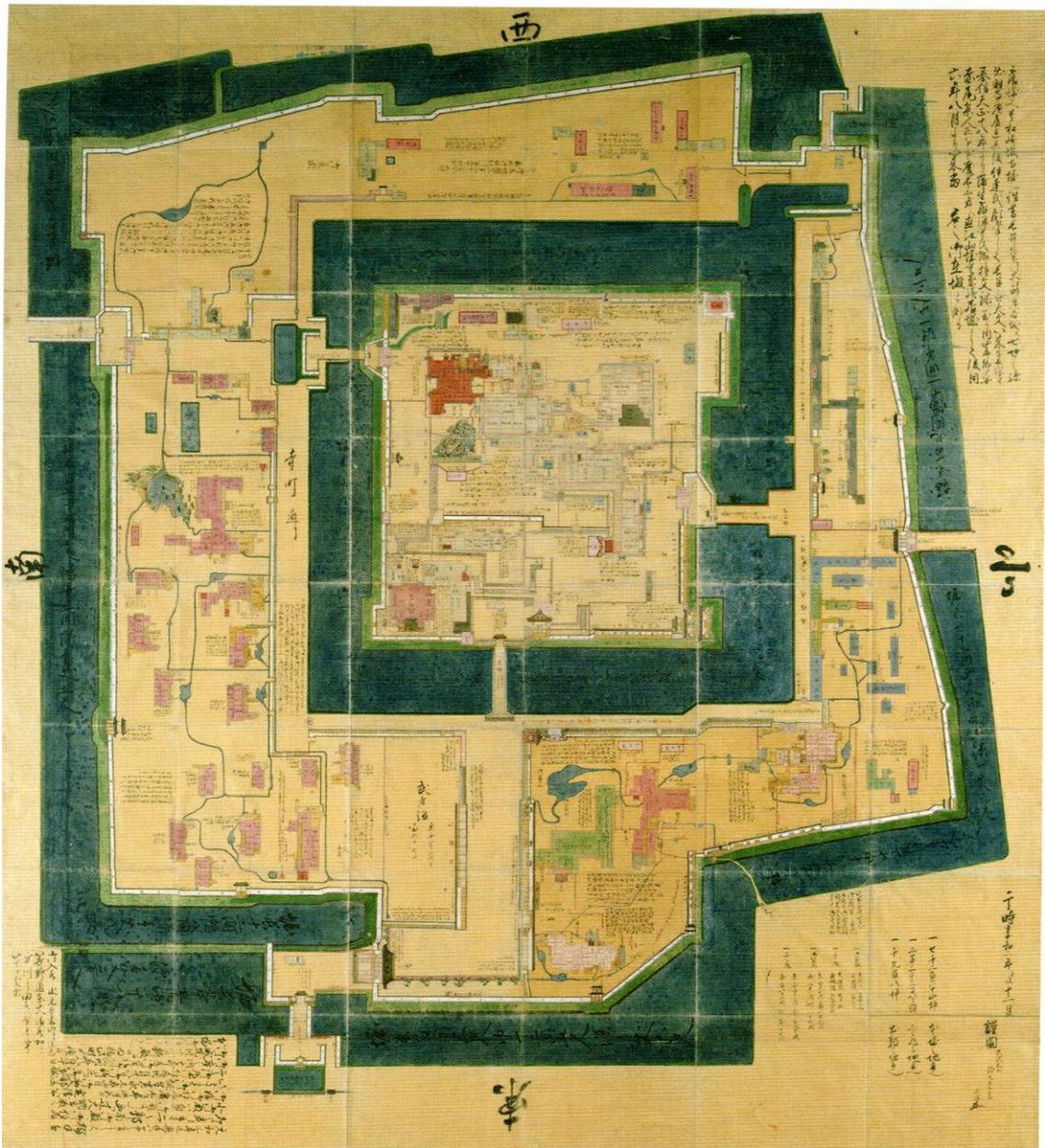


図 2 松岬城図

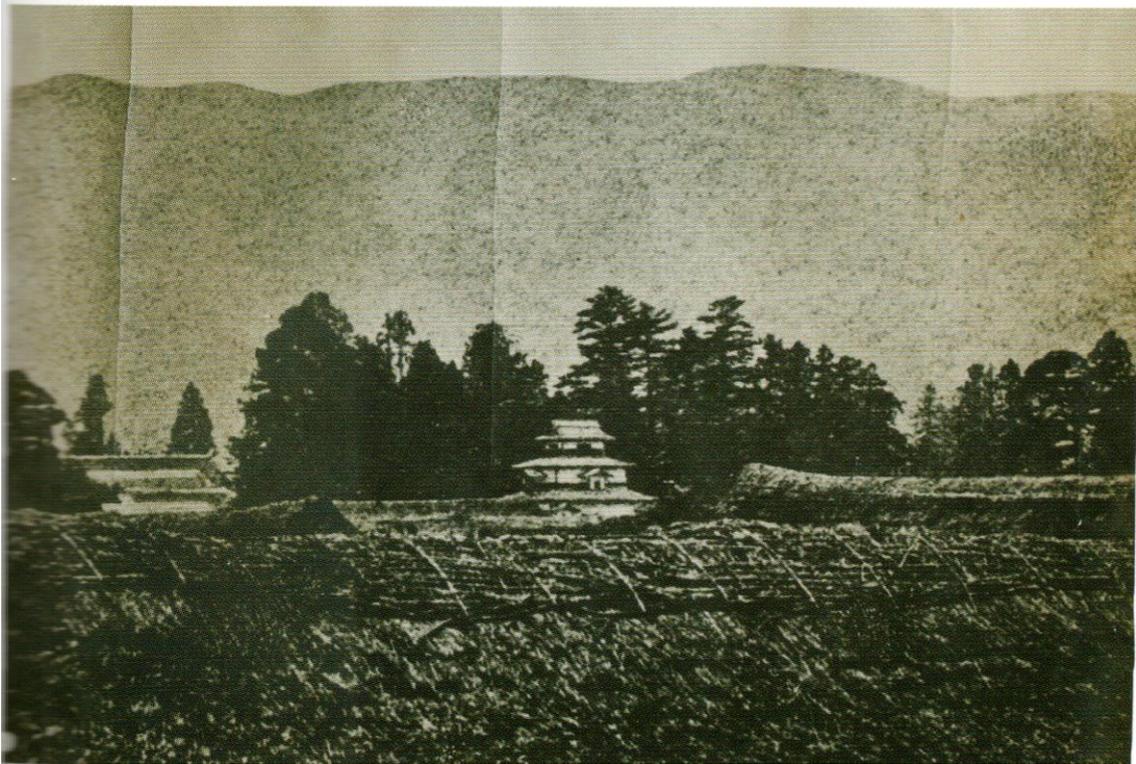


図3 米沢城古写真

(2) 三階櫓の位置

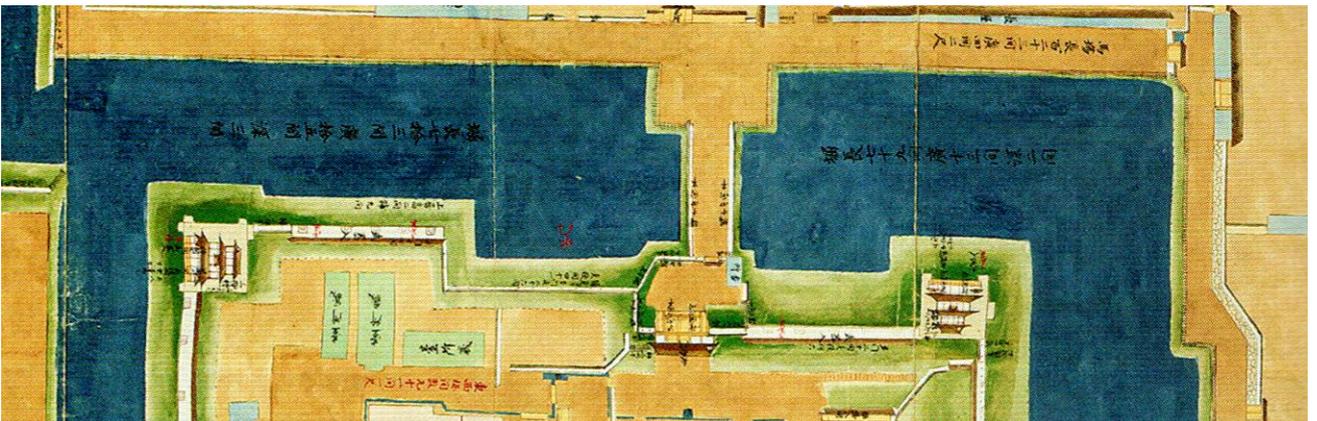


図4 御城絵図の本丸北辺部分

- ・本丸の北東と北西に1棟ずつあった・・・本丸の北辺の東西隅に存在
 - ・米沢城の正面は東側・・・大手門は東にある
- なぜ2棟の三階櫓が北面に？

史料1 「松岬城堞図」

元和三年迄、追手ハ子之方にして、搦手者卯之方と云々、

→追手（大手）は元和3年（1617）までは子（北）で、搦手は卯（東）だった？

⇒北が正面だった

- ・本丸の東辺ラインは一直線
 - ・北面は凸凹ライン→横矢がかり＝侵入者を横から攻撃
- 北からの侵入を意識した設計

- ・本丸の北辺に2つの三階櫓が屹立
- 北から見た場合、見栄えがする＝超カッコいい
- ・北には何が？・・・ライバル山形城の最上義光
 - ・城下町が東側に南北に展開
 - ・江戸との交通路・・・板谷峠→福島へ
- 東を正面に変更

- ・2つの三階櫓はもともとの大手に建てられた
- 2つの三階櫓は上杉家のシンボルとして建設

(3) 絵画資料の描き方

- ・描き方にも特徴
- 北東の櫓は北向きの絵、北西の櫓は西向きの絵（例外もあり）

史料2 「御城内明細御絵図」の書き込み

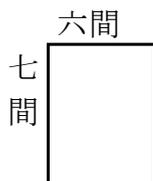
- ・北東の三階櫓

行間七間 梁間六間 高四丈四尺三寸 *行間は桁行のことか？



- ・北西の三階櫓

行間七間 梁間六間 高四丈九尺



- ・昔の建物・・・桁行（けたゆき）と梁行（はりゆき）、平（ひら）と妻（つま）
- 桁行の平が正面の場合が多い

→北東の櫓は北面が桁行なので北が正面
→北西の櫓は西面が桁行なので西が正面
⇒絵も正面から見た立面を描いた

第2章 復元できるか？

(1) 復元のデータ

・1階の平面規模→両方ともに7間×6間
*1間=約180cm・・・時期と地域によって違う
★戦国時代頃 おおよそ1間≒197cm
→1間=197cmで計算すると

・北東の三階櫓の規模
→7間×197cm=1379cm 6間×197cm=1182cm
→平面・・・約13m79cm×約11m82cm
・高さ4丈4尺3寸 *1寸=約3cm(変動あり)
3cmで計算すると
→443寸×3cm=1329cm
→約13m29cm

史料3「松岬城堞図」

東御三階、寛文十三年、御建直し、下段六間二七間、高一丈二尺六寸、中段一間ツメ、高一丈七寸、上段高八尺、護摩檀ナリ、中段御補理道具入、下段東之方御金具物置、西之方普請方物置、(上杉博 2020)

史料4『上杉家御年譜六綱憲公』延宝元年=寛文13(1673年)正月15日条
杉浦内蔵允正友ノ許へ樋口与左衛門兼忠ヲ遣サレ、窺問シ玉フ、其趣ニ曰、
口上書

米沢居城本丸丑寅之方三階矢倉行間七間梁六間高サ四丈四尺一寸、此矢倉致破損付而、立直度存、五年以前、北条安房守殿ヲ頼入、御月番之御老中江申達候得者、有来通候ハ、致普請候得由、被仰聞候、其節、修覆計申付差置候処、及大破候由、為申登候間、当春中ヨリ普請申付度存候、此旨、御伺可被下候、以上、

正月十五日

上杉喜平次

杉浦内蔵允様

右ノ旨、正友、老中へ窺問ノ処、勝手次第タルベキ旨、指揮アリ、仍テ老中へ使介ヲ以テ御請アリ、且不日米府ニ脚力ヲ以、告達、三階矢倉普請アリ、

・寛文13年=延宝元年(1673)に修理

◎三階ごとの情報

下段=1階 6間×7間 高さ1丈2尺6寸

中段=2階 一間ツメ→4間×5間 高さ1丈7寸

上段 = 3階 高さ 8尺

- ・ 総高・・・「御城内明細御絵図」→高四丈四尺三寸
各階の高さの合計 1丈2尺6寸+1丈7寸+8尺=3丈1尺3寸
高4丈4尺3寸-3丈1尺3寸=1丈3尺・・・屋根の分？

- ★「松岬城堞図」の北西の三階櫓は平面図しかない
最外+中間+最内

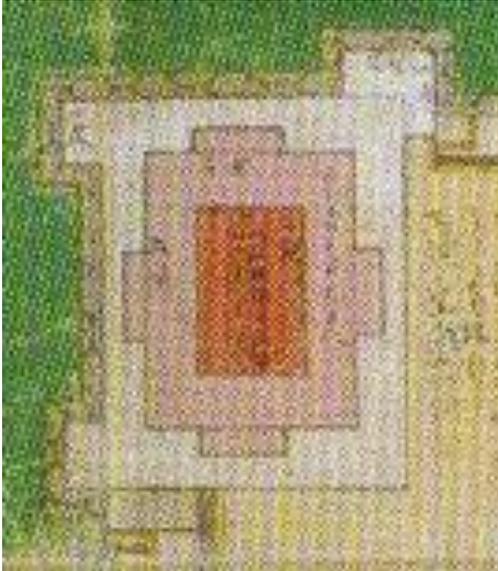


図5 松岬堞図の北西の三階櫓

○立面の絵図



図6 松岬堞図の北東の三階櫓

- 1階は両端に出っ張り（出窓・石落とし）・・・最外
- 2階は真ん中に出っ張り・・・中間
- 3階には出っ張りなし・・・最内

→各階の平面か

→各長方形も一間ずつくらい縮小しているように見える

(2) 新たな不思議

「御城内明細御絵図」・・・高さ4丈4尺3寸

『上杉家御年譜六綱憲公』・・・高さ4丈4尺1寸

→2寸低い???

→寛文13年の修理

高さ4丈4尺1寸→高さ4丈4尺3寸

⇒2寸高くしたかも？

◎各階の平面の規模、出っ張り、各階の高さ、櫓の総高、が判明！



図7 米沢城本丸図

第3章 最大のナゾ？

- ・北東の三階櫓の上段＝3階・・・護摩壇???
- ・他のお城にもあるのかな？

- 安土城天守の地階に宝塔？
- 小田原城天守の最上階に摩利支天を祀る壇
- ◎他にも武禱式など・・・上杉家らしい施設なのかも

おわりに

- ・幻の三階櫓を復元できそう

→しかし課題も・・・

- ・柱の配置→発掘調査
- ・屋根の勾配や軒の出、出っ張りの大きさ、などなど
→ディテールが必要

→まだいろいろの課題あり

- ・北面に並ぶ2棟の三階櫓は重要な意味
特に北東の三階櫓には護摩壇があり最重要・・・天守にかわるシンボリックな位置づけ

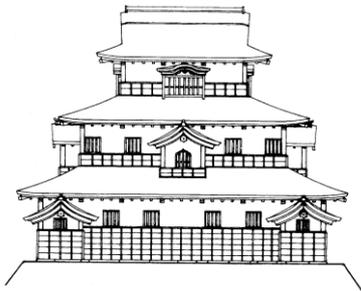


図5 米沢城本丸東北隅櫓復元立面図
(復元：石井正明)

図8 北東三階櫓復元図 (石井正明氏)

〔参考文献〕

- 内藤昌『復元安土城』講談社、1994年
- 『米沢市史 第二巻 近世編1』1991年
- 山田由香里他「小田原城天守再考—その2 最上階に祀られた摩利支天」『2013年度日本建築学会関東支部研究報告集Ⅱ』2014年
- 小笠原徳明他「小田原城天守再考—その3 最上階摩利支天像を祀る空間の復原」『2014年度日本建築学会関東支部研究報告集Ⅱ』2015年
- 上杉博物館『特別展 米沢城』2020年
- 三浦正幸『天守』吉川弘文館、2022年

DigitalDaiku <https://8787pc.com/index.html> に復原CGあり

〔図版出典〕

- 図1～7 上杉博物館『特別展 米沢城』2020年 一部改変
- 図8 三浦正幸『天守』吉川弘文館、2022年 一部改変